

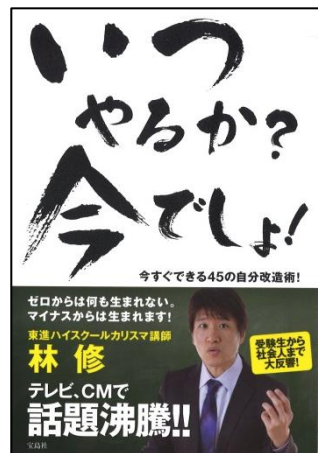
# ゆめ工房

Vol. 10

## いつやるか？ 今でしょ！

◇ 林修氏ってご存じですか？ そう、あの「いつやるか？ 今でしょ！」で有名になった東進ハイスクールのカリスマ講師です。2013年にこの台詞が流行語大賞に選ばれた頃から、いろんな番組でタレント顔負けのキャラでがんばっておられます。その林氏の著書があります。その副題に「今すぐできる45の自分改造術」とありました。

自分を変えるというのは、なかなか難しいものです。しかし、この本には、「自分を変えるには、物事のとらえ方を変える」というスタンスで、今、何をしたらいいかを分かりやすく書かれています。その中身については、今回割愛しますが、今回は、その「はじめに」に書かれていたことを紹介します。



僕たち予備校の講師は、「わかりやすい授業」を目指して努力します。僕も若い頃はそうでした。生徒が目を輝かせ、そうか、わかったぞ！ と満足すると、その顔を見て自分も満足していたのです。

しかし、いつの頃からか、どこか不満を感じるようになったんです。確かに「わかりやすい授業」はできている、生徒の満足度もずっと高い水準を維持している—それでも、何か違う、そういう思いが消えませんでした。

そんなときでした。1枚の紙切れが、部屋の片隅から出てきたのです。

「かのギリシア・ローマの昔、キケロが演説を終わったとき、民衆は『なんと雄弁だろう！』と感服した。しかし、デモステネスの演説が終わると今度は、口々に叫んだ『さあ、行進しよう！』と」

あっ、これだ！ 自分の授業に欠けていたものがようやくわかりました。このアメリカの政治家の言葉が書かれた古びた紙切れは、当時、父の勤める会社の業績が悪く、社員に、特に若い社員に立ち上がってほしい、という願いを込めて全社的に配布した冊子でした。それを父はなぜか息子の僕にまで渡してくれたのです。

今の僕は、生徒を単に「感服」させるだけでなく、「行進」させることができているのだろうか？

「プロ」である我々が「わかりやすい授業」をするのはあまりにも当然のことであり、それは前提にすぎません。にもかかわらず、それが目的になっていた自分を恥じました。

予備校の授業時間よりもずっと長い受験生の日常時間に、彼らが「行進」すなわち勉強しようという思いをかき立てることこそが、我々の真の仕事だとようやく気づいたのです。

授業を、終点ではなく、日常の飛躍に向けてのスプリング・ボード＝踏切板にせねばならない—そう考えた僕は、それまで以上に準備と工夫を重ねるだけでなく、生徒が日常に飛び出していきたくなるような言葉を発信するようになりました。

「いつやるか？ 今でしょ！」

【原文ママ】

あの有名なフレーズが生まれた理由が書かれている部分です。

◇ これを読んで、校内研修のことを考えました。

**「研修って何のために行うのだろう？」**

校内研修の目的は、一般的に、①学校教育目標及び重点目標の具現化のため ②教師としての資質向上(授業力向上)のため ③学校全体での組織力を高めるため ④教師の意識改革を促し、授業の質的な改善に努めるため という4点にあるといわれています。ところが、この「はじめに」を読んで、もう一つ足りないと思ったのです。それは、

**「子どもたちが自ら動き出すため」**

ということです。どんなに「わかる授業」を工夫しても、その後、子どもたちが動き出さなかったら意味がないのではないかと、ということです。そう考えて、自分の学校の研修の進め方を見てみてください。はたして、「子どもたちが自ら動き出すため」の研修になっているでしょうか。なっていないとすれば、どこにどういう工夫をすればいいのでしょうか。ぜひ考えてみてください。

文責：スギタ